

日本社会福祉教育学会

NEWS LETTER NO.30

Japanese Society of Social Welfare Education

<事務局> 〒998-8580 山形県酒田市飯森山 3-5-1 東北公益文科大学 小関研究室気付

TEL 0234-41-1288 E-mail : info@jsswe.org HP : http://jsswe.org/

2017年12月25日発行

目次

1. 巻頭言・・・・・・・・保正 友子・・・・・・・・(1)	4. 2017年度総会報告・・・・・・・・(8)
2. 第13回大会報告・・・・・川崎 昭博・・・・・・・・(3)	5. 理事会報告・・・・・・・・(10)
3. 大会参加者の声～ 前廣美保・西村愛・二渡努・木村あい・・・・・・・・(5)	6. 会長就任あいさつ・・・・・・・・(14)
	7. お知らせ・・・・・・・・(16)
	編集後記・・・・・・・・(16)

1. 巻頭言

「学生のエンパワメントに対して社会福祉養成教育が行うべきこと」

立正大学 保正友子

数十年前から、ソーシャルワークの世界ではエンパワメントが主要概念の一つになっており、様々な研究や活動が行われてきている。先日、この概念に関連した映画『ドリーム』を観る機会を得た。

この映画は1960年代にアメリカ南部において、白人と有色人種の分離政策が行われていた時代に、NASAに計算係として雇われた3人の黒人女性を軸に進んでいく。3人とも大変優秀なのだが、男性が多いNASAの内部で激しい偏見と差別にさらされ続けていく。例えば、天才的な数学の力の持ち主であるキャサリンは、有人宇宙船計画の核となる宇宙特別研究本部に初の黒人で女性スタッフとして配属されるが、キャサリンが使えるトイレは同じ建物内には設置されておらず、800メートルも先の非白人用のトイレを使わなくてはならない。また、本部内でのコーヒーポットは「白人用」と「非白人用」に分けられている。特に印象的だったのは次の場面である。後に夫となる軍人と初めて食事会で出会った時に、NASAに勤めていると言った彼女に対し、彼は「大変だ、女性にそんな仕事を・・・」という言葉投げかけるのだ。その時にキャサリンは、次の言葉で切り返す。「私はウエストバージニア大学の大学院初の黒人女性。毎日排気の圧力や摩擦や速度の解析をしている。平方根の計算も何万回としている。NASAで女性を雇っている理由は職場の花だからじゃない、眼鏡をかけているからよ」と言い、自らの眼鏡を指で持ち上げるのである。そのような状況のなか、持ち前の力を発揮しながら周囲の理解を勝ち取ってプロフェッショナルとして承認されていく姿は、まさにエンパワメント過程そ

のものといえよう。

このエンパワーメントの概念について Gutierrez は「個々人が彼らの生活状況を改善するための活動を行うことができるよう、個人的、対人関係的、政治的パワーを増強するプロセスである」と定義している¹⁾。また Cox らはエンパワーメント・アプローチの4つの次元について、①個人的次元、②対人関係的次元、③ミクロな環境および組織的な次元、④マクロな環境および社会政治的次元²⁾と定めている。以上のようなエンパワーメント・アプローチを行ううえで、非対称的な社会・経済システムの変革という政治的次元への働きかけが不可欠なことはいうまでもないが、同時に個人的次元、対人関係的次元へのアプローチの主要な手段である教育は重要である。キャサリンは、類い希なる数学の才能の持ち主ではあったものの、学校教育のなかでそれを職業に生かせる力にまで昇華し、さらに厳しい職場環境のなかで働き続けられたのは、やはり教育のなかで培った自信や誇りがあったからではないだろうか。

さて、ここで社会福祉養成教育に目を転じてみると、やはり教育における学生達のエンパワーメントは欠かせない課題である。とりわけ私は、養成校の学生達はソーシャルワーカーに向けた3側面の力量を育てること、つまり3側面におけるエンパワーメントが必要であると考えている³⁾。①ソーシャルワークの価値・知識・技術を適切に統合し発揮する力、②各種システムとの関係構築を行う力、③専門的自己を確立する力の獲得である。そのためには、教員側もますます戦略的にならなければならない。学生の学習進度とニーズに応じて、教育内容と教育方法をマネジメントし臨機応変に提供する必要がある。すなわち、時代の流れのなかでソーシャルワーカーに求められるものは何か、それを目指す学生が今いる場所はどこか、どのような教育を行えばそれが可能になるのかという複雑な交互作用を常にアセスメントし、教育を行い、成果を出していかなければならない。キャサリンのような自信と誇りと実力を持ったソーシャルワーカーを育てるべく学生達のエンパワーメントを促すこと、それこそが今私達に課せられた大きな命題であり、腕の見せ所でもある。

注

- 1)Gutiérrez,L. (1990) Working with Women of Color : An Empowerment Perspective.*Social Work*,35,p.149.
- 2)Cox,E.,Persons,R. (1994) *Empowerment Oriented Social Work Practice with the Elderly* .Brooks/Cole,A Division of International Thomson Publishing Inc.小松源助監訳(1997)『高齢者エンパワーメントの基礎～ソーシャルワーク実践の発展を目指して～』相川書房,p.59.
- 3)保正友子(2013)『医療ソーシャルワーカーの成長への道のり～実践能力変容過程に関する質的研究～』相川書房.

2. 第13回大会報告

川崎昭博（龍谷大学短期大学部）

「大学における社会福祉教育の到達目標と福祉専門職養成教育の位置づけ」をテーマとして2017年9月2日（土）～9月3日（日）、龍谷大学深草キャンパス和顔館 B1Fにて日本社会福祉教育学会第13回大会が開催されました。また、9月1日（金）は、プレ企画として「福祉×京都×国際×文化×体験」ツアーも実施しました。

9月2日（土）の学会企画シンポジウムは「学部教育と大学院教育の連結と福祉専門職養成教育の位置づけを巡って」と題して、シンポジストとして、宮嶋 淳（中部学院大学）、川島 恵美（関西学院大学）、阪口 春彦（龍谷大学短期大学部）、木原 活信（同志社大学）、コーディネーターとして、杉山 克己（青森県立保健大学）からお話をいただいた。



午後は、ワークショップ「マクロのソーシャルワーク演習の進め方」が行われ、講師の川廷 宗之（大妻女子大学名誉教授、職業教育研究開発センター 副センター長）のもと、多くの方が参加しました。



また、9月3日（日）は開催校企画シンポジウム「いのちの尊厳と生きる価値」が行なわれた。シンポジストとして、玉木 幸則（NHK eテレバリバラ 出演者 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 障害者総合相談支援センター長）、要田 洋江（大阪市立大学名誉教授、大阪歯科大学）、加藤 博史（龍谷大学短期大学部）、コーディネーターとして、小山 隆（同志社大学）からお話をいただいた。



以下では、大会の概要と参加者の声をご紹介します。

大会テーマ

大学における社会福祉教育の到達目標と社会福祉専門職教育の位置づけ —学部教育と大学院教育の連結と福祉専門職養成教育の位置づけを巡って—

日 時：2017年9月2日（土）～9月3日（日）

会 場：龍谷大学深草キャンパス和顔館 B1F（京都市伏見区深草塚本町 67）

主 催：日本社会福祉教育学会

後 援：日本社会福祉系学会連合

趣 旨：（抄録集より抜粋）一昨年来、矢継ぎ早に、ニッポン一億総活躍プラン、我が事丸ごと地域共生社会実現などに基づく新たな福祉提供ビジョンが提起されています。こうした新しい地域包括支援体制を担う人材養成にかかわる福祉教育に対して、大きな課題が提起されているといっても過言ではありません。大会企画シンポジウムでは、このような中で求められる社会福祉教育、中でも専門職養成教育を通して身につけるべきコンピテンシー、そのために設定されるべき福祉教育の具体的な達成目標とは、何なのか、社会福祉教育は他の専門職養成教育に比肩する内容と水準を担保するためにどうあるべきなのかということについて明らかにしたいと思います。

プログラム

【プレ企画】 9月1日（金）

「福祉×京都×国際×文化×体験」ツアー

【1日目】 9月2日（土）

9：50 ～ 12：20 学会企画シンポジウム：「大学における社会福祉教育の到達目標と福祉専門職養成教育の位置づけ—学部教育と大学院教育の連結と福祉専門職養成教育の位置づけを巡って—」

◆シンポジスト：宮嶋 淳（中部学院大学）、川島 恵美（関西学院大学）、
阪口 春彦（龍谷大学短期大学部）、木原 活信（同志社大学）

◆コーディネーター：杉山 克己（青森県立保健大学）

13：30 ～ 14：40 学会年次総会

14：40 ～ 16：30 自由研究発表①

16：30 ～ 18：30 ワークショップ「マクロのソーシャルワーク演習の進め方」

講師：川廷 宗之（大妻女子大学名誉教授、職業教育研究開発センター 副センター長）

【2日目】 9月3日（日）

9：10 ～ 10：20 自由研究発表②

10：20 ～ 12：50 開催校企画シンポジウム：「いのちの尊厳と生きる価値」

◆シンポジスト：玉木 幸則（NHK e テレバラバラ 出演者 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 障害者総合相談支援センター長）、要田 洋江（大阪市立大学名誉教授、大阪歯科大学）、加藤 博史（龍谷大学短期大学部）

◆コーディネーター：小山 隆（同志社大学）

3. 第13回大会参加者の声

プレ企画「福祉×京都×国際×文化×体験」ツアーに参加して

前廣 美保（武蔵野大学通信教育部）

昨年度入会して、初めて大会に参加しました。「せっかく遠方の学会に参加するなら、プレ企画にも参加する」のが私の主義です。定員が少ない上にしめきり間際の申込でしたが、参加を受け付けていただき、楽しみにしておりました。

当日、9月1日（金）10:15に集合場所の京阪電鉄「東福寺」駅東口改札口に行ってみると、それらしい集団が見つかりません。「場所を間違えた？」と不安になっていると、プレ企画担当の阪口先生と研究生の茶谷さん、そして阪口先生のゼミ生のみなさんが集まりました。そこで判明したのは、学会からの参加者は私ひとりのみという事実！「それはちょっと申し訳ない」という思いがわき上がりましたが、贅沢な時間を楽しむことに切り替えました。

午前の第一部では、社会福祉法人こころの家族が運営する特別養護老人ホーム「故郷の家・京都」を見学しました。京都市南区の鴨川のほとりにあるこの施設は、高齢在日韓国人のために2009年に開設され、地域の交流の拠点として、韓日の文化を大切にしたい支援を行っています。この地区は、戦後、主に在日韓国人などの被差別者が住み着き、貧しくもたくましく生活をつないできた、住所地外の土地だったそうです。

創設者は、韓国で孤児支援に生涯を捧げた田内千鶴子氏の息子で、ソーシャルワーカーの尹基氏です。彼は、高齢になり心身の弱くなった人にとって、生まれ育った文化の食べ物や暮らしを大事にしたいと、「梅干しとキムチ」が食べ

られる施設を目指しました。建物も韓国の伝統様式をあちこちに取り入れて、居心地よく美しく整えられています。職員のほとんどが韓国語（朝鮮語）を話せるのも大切なことです。戦争と差別を経験して、私たちの想像を超えた苦勞をされた高齢者が、嬉しそうに故郷の思い出を語る姿をビデオで拝見して、涙と笑顔になりました。

予定時間を大幅に超過してお話を伺ったため、お昼を食べる時間がなくなってしまいました。午後の第2部へ大急ぎです。ここからは、阪口先生、茶谷さんと私の3人です。タクシーで祇園に移動して、まず浴衣の着付けをしてもらいました。観光気分が盛り上がります。浴衣姿の3人で祇園の街を散策です。阪口先生から、京都の観光と福祉についてのミニ講義と案内を受けながら歩く、貴重な時間でした。八坂神社はさっと見学し、近くでサンドイッチを買って軽い昼食にしました。

続いて、茶道体験です。町屋の一室に簡易の茶室がしつらえてあり、英語でお手前の説明を受けながら、お菓子とお薄をいただきました。日本の文化でありながら、非日常の体験で、興味深くお話を伺いました。座椅子を使わせてもらえるため、足のしびれも気にならず、ほどよい緊張感とくつろぎ感であったという間に過ぎた時間でした。

たったひとりの参加者のために、心のこもったもてなしの企画を用意していただき、温かい気持ちと京都の町を堪能した1日でした。ありがとうございました。

大会企画シンポジウムに参加して

西村 愛（青森県立保健大学）

社会福祉士養成教育に携わるようになって、今年で13年目になる。勤務先の大学では、以前と比べて、不本意入学や、資格がとれるから等、社

会福祉を学ぶ動機が弱い学生が入ってくるようになった。また、対人援助に興味の薄いものの、実習を希望し、国家試験に現役合格する学生も少

なくない。いったい、社会福祉士としての資質とは何か、学部教育では、知識だけではなく、何を考え、実践できるように、伝えていかなければならないのか。私の中で、問題が明確化した時点で、本大会テーマは絶好のタイミングであった。

シンポジウムでは、短期大学の到達目標については阪口氏が、学部教育における福祉専門職養成の意義と課題については川島氏が、木原氏からは社会福祉教育における大学院の課題の報告がなされた。宮嶋氏は、リカレント教育としてのスクールソーシャルワーカー養成教育の講義や実習内容が紹介された。それぞれの報告は、1つひとつ興味深いものであり、特に川島氏の学部生の多様化は、私の問題意識と重なるものであったが、特に考えさせられたのが、木原氏の報告である。

報告を聞くまでは、私は、短期大学→四年制大学→大学院と段々と専門性が高まっていくと、安易に考えていた。しかし、大学院の現状として、他専攻や社会人も増えていること、社会福祉を学んできた留学生もいれば、日本語を学んで、社会福祉の基礎がない留学生も多く在籍していることを知った。

このような状況は、学部の編入生にも当てはまる。保育や教育など隣接領域から編入してくる学生もいれば、全く他領域からの編入生もいる。単位認定では、隣接領域学生が30単位以上読み替

えられるのに対して、他領域学生は、教養科目や語学など15単位ほどしか読み替えられないこともあり、1年次の社会福祉基礎科目から履修することになる。詰め込み傾向にある現状に対して、教員からは、まとまった単位を一括認定することや、隣接領域からの編入生を求める意見もある。しかし、私は、逆に読み替えた科目の到達目標は何か、それは短大などで修得した科目のそれと同じか確認していくことも大事だと考える。単位として読み替えたとしても、社会福祉士として必要な知識や技術を身につけるためには、下位学年の科目を受講させることも、場合によっては必要になってくる。そこで、問われてくるのが、学部教育における専門職養成教育のあり方である。つまり、養成校の教員間で、それぞれの社会福祉士専門科目において、どのような到達点を目指しているのか、その教育内容についても議論していく必要がある。

今回のシンポジウムでは、各講演者が社会福祉の専門性をどのように捉え、学部教育にどのようなことを求めているのか、分かりづらかったことが残念であった。学会では、養成教育のあり方について、継続的に議論が行われている。私も、積極的に大会に参加することによって、自分の担当している科目のあり方について、考え続けていきたい。

ワークショップ「マクロ・ソーシャルワーク演習の進め方」に参加して

二渡 努（社会福祉振興・試験センター）

この度、日本社会福祉教育学会第13回大会に参加させていただきました。非常に実り多い内容となったワークショップについて、その概要と所感をお伝えします。

ワークショップは講義と演習の2部構成で行われました。前半は講師の川延先生から「教員の知識を学生に伝達する」ものから、「知識は学生が組み立て、発見し、変形し、広げるものである」とする高等教育のパラダイム転換、有能なコミュニティ・ワーカーの養成が喫緊の課題であること、マクロ・ソーシャルワーク演習の重要性とその進め方等について講義を拝聴しました。

後半の演習では、ある市の統計資料（人口、高齢化率等）と住民、市民へのインタビューの結果をもとに、コミュニティの課題分析を5人1組の

グループで行いました。各自の分析結果をグループ内で共有すると、同じ資料で分析しているにも関わらず、「そのような視点もあったのか」と自分では発見できなかった気づきがたくさん得られました。また、グループメンバーとの意見交換で、自身の傾向や強みを発見することができました。限られた短い時間の演習でしたが、「知の伝承」ではなく、「知の発見」を目的とするアクティブラーニングの教育効果の高さを実感として理解することができました。

アクティブラーニングを成功に導くポイントは、綿密な授業準備と学生に対する教員の適切な反応だと思います。教員が学生に答えを教えることは簡単ですが、それは学生の成長の機会を奪うことにもなりかねません。学生の知的好奇心を引

き出すような、「仕掛け」と、学生が答えを見つけるきっかけを提供する「質問力」、学生が答えに辿り着くまで「待つ」姿勢が教員に必要な能力であり、自分自身の今後の課題であると認識できました。ソーシャルワーク教育における、アクティブラーニングの効果的な活用について、引き続き考えていきたいと思ひます。

今回、初めて参加させていただきましたが、専門教育に関する知識・技術をアップデートするために、このような大会は非常に意義のあるものだと思います。ソーシャルワーク教育の質を高めるために、来年はさらに多くの方々に参加していただきたいと思ひました。

開催校企画シンポジウム「いのちの尊厳と生きる価値」

神戸女子大学 木村 あい

2日目は「いのちの尊厳と生きる価値」というテーマで開催校企画シンポジウムが行われました。社会福祉教育において、人権教育が形骸化されることなく、いのちの尊厳や生きる価値について真に理解し、生きた教育にするにはどのような取り組みが必要なのかということに興味をもちました。

昨年起きた「津久井やまゆり園」の事件を題材に、当事者の立場で玉木幸則氏、社会学者の立場から要田洋江先生、社会福祉教育者の立場から加藤博史先生がご登壇され、小山隆先生がコーディネートをされました。

玉木氏は、事件後、容疑者の考えに共感したという男性との対談を映像で示してくれました。その対談の中で男性は生産能力で人間の価値が決まるという考え方や、自分には障害がないから、結局は他人事であることを話していました。議論の末、男性は「根本じゃなくて、目に見える現象を叩こうとしていたのかな」と話していました。この対談を通し、話し合うことで理解が深まり、分かり合えることがあるということが示されました。さらに玉木氏は、社会福祉を教える教員へのメッセージとして「人間の尊厳を伝え切れない」ということを指摘されました。

要田先生は「津久井やまゆり園」事件が私達に何を教えているのかという視点で、障害者運動を経ても変わらない日本社会の現実等、一般社会の

価値観と障害当事者の価値観のズレを指摘されました。そして、福祉分野で働く人のための社会福祉教育が目指すべきこととして、福祉的支援の中に、障害当事者の主体性をエンパワーする「セルフアドボカシー」を根付かせるためには「共にあり寄り添う専門家の育成」が重要であることを述べておられました。

加藤先生はWell-being 価値の教育の視点から重要なこととして、葛藤すること、おいしい人間であるべき、命が補い合いつながっているという責任の自覚を伝える教育、「弱さ」ということに大切な意味があることを伝える教育、この人たちにどんな価値があるのかという葛藤、オルタナティブストーリーを社会的につなげる・広げる、エンパワメント、非理性的・非生産的を排除するものの方・考え方は歴史的に作られてきたと見ること、社会を開いていく（大学をどう開いていくか…）等を挙げられました。

このシンポジウムに参加して、コーディネーターの小山先生のまとめにもあったように、全ての人間に価値があること、「私は私」というように実存に問い掛けていくことの重要性を再確認しました。さらに、尊厳とは何か、人権とは何かと深く再考するきっかけになりました。また、玉木氏からのメッセージを真摯に受け止め、その根本的なことや方法についても考えていきたいと思ひています。どうもありがとうございました。

4. 総会報告

2017年9月2日(土)、第13回大会期間中に日本社会福祉教育学会2017年度総会が開催されました。以下、ご報告いたします。

1) 開催概要

【日 時】2017年9月2日(土) 13時30分～14時15分

【会 場】龍谷大学深草キャンパス和顔館 B107 教室 (京都市伏見区深草塚本町 67)

開会に先立ち、志水会長から、第4期執行部の方針として掲げた「学会運営基盤再建・整備」および「組織的な研究体制の確立」が道半ばであり、残された課題を第5期執行部に申し送りたいという内容の挨拶があった。その後、中里会員(秋田看護福祉大学)を議長として開会した。

2) 議事

第1号議案 2016年度事業報告(案)、第2号議案 2016年度決算報告(案)及び監査報告、第3号議案 2017年度事業実施中間報告兼補正事業計画・予算(案)及び「2017年度補正予算(案)」、第4号議案 2018年度事業計画(案)について賛成多数で承認した。なお、2018年度事業計画(案)における第14回大会日程については、「土日開催の方向で検討する」ことを追加して承認した。

続いて、第5号議案 2018年度予算(案)については、増山会員(東京通信大学設立準備室)から「学会誌販売収入が得られるように検討してはどうか」との提案があり、次期執行部で検討するよう申し送ることを確認し、賛成多数で承認した。

最後に、第6号議案 第5期役員選出(案)については、志水会長より横山選挙管理委員長から理事会に提出された「役員選出選挙に関する経過報告」及び「役員選出選挙結果への理事会の対応について」が読み上げられた後、「第5期役員選出について」の説明があり、賛成多数で承認した。なお、議案内容については以下のとおりである。

第1号議案 2016年度 事業実施報告

1. 理事会・事務局関係

1-1. 総 会

日 時：2016年9月3日(土) 13:30～14:30、会 場：関西学院大学上ヶ原キャンパス G 号館、
議 決 項 目：2015年度事業報告、決算報告、監査報告／2016年度補正活動計画、予算／2017年度
事業計画、予算 ほか

1-2. 理 事 会

<第1回>

日 時：2016年9月2日(金)、会 場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 15:00～17:00、内
容：総会議案／第12回大会運営準備

<第2回>

日 時：2017年3月4日(土) 13:00～17:00、会 場：TKP 浜松町ビジネスセンターカンファレンス
スルーム 3A、内 容：第13回大会準備／役員選挙(選挙管理委員選出等)／学会誌・NL 報告／
科研申請／出版企画

1-3. 理事懇談会

<通信による理事等懇談会>

日 時：2016年4月20日(水)～26日(火)、内 容：学会ホームページの新規開設及び予算の
補正／理事の担当変更について 等

1-4. 会員状況(2017年3月31日時点)

会 員 数 235名、新入会員 19名(理事会承認…第1回12名、第2回7名)、退会者数 13名(理
事会確認…第1回10名、第2回3名)

2. 研究関連

2-1. 第12回大会

日 時：2016年9月3日(土)・4日(日)

会 場：関西学院大学上ヶ原キャンパス G 号館

後 援：文部科学省、日本社会福祉系学会連合
 テーマ：社会福祉教育における IPE の取り組みとグローバル化への対応
 ～新たな授業科目の検討と教材開発を目指して～

内 容：

【学会企画シンポジウム】

「社会福祉教育における IPE の現状と今後の課題に関する総合的検討」

シンポジスト：藤林 慶子（東洋大学）
 杉山 克己（青森県立保健大学）
 春木 邦子（新潟医療福祉大学）
 コーディネーター：白川 充（仙台白百合女子大学）

【開催校企画シンポジウム】

「グローバル化に対応する実践教育の取り組み」

シンポジスト：高杉 公人（聖カタリナ大学）
 武田 丈（関西学院大学）
 原島 博（ルーテル学院大学）
 コーディネーター：川島 恵美（関西学院大学）

【ワークショップ】 デス・エデュケーションに関するワークショップ

講師：片岡靖子（久留米大学）
 ※その他、特定課題セッション、自由研究発表等

2-2. 第7回春季研究集会

日 時：2017年3月5日（日）10:30～16:30

会 場：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会研修室
 （東京都港区港南4丁目7番8号 都漁連水産会館6階）

主 催：日本社会福祉教育学会、（一社）日本社会福祉教育学校連盟・（一社）日本社会福祉士養成校協会関東甲信越ブロック

後 援：厚生労働省、文部科学省、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会、日本社会福祉系学会連合

テーマ：社会福祉専門職養成教育の見直しと今後の社会福祉教育研究の課題～今、私達が行えること・行わなければならないこと・行いたいこと～

内 容：

第Ⅰ部＜講演＞社会福祉改革の全体像の共有

1. 「福祉人材確保策の動向」

菊地 芳久（厚生労働省社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 室長補佐）

2. 「社会福祉専門職養成教育の見直しをめぐる動向」

中谷 陽明（松山大学人文学部 教授、前日本社会福祉士養成校協会 常務理事）

第Ⅱ部＜シンポジウム＞ 社会福祉教育研究の課題と展望

テーマ：

「社会福祉専門職養成教育の見直しについて現場実践者・養成校教員・福祉教育研究者の立場から考える」

コーディネーター：志水 幸（北海道医療大学看護福祉学部 教授）

シンポジスト：

- ①現場実践の立場から：山本 繁樹（立川市社会福祉協議会 地域福祉推進課長、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、主任介護支援専門員）
- ②養成校教員の立場から：橋本 有理子（関西福祉科学大学社会福祉学部 准教授）
- ③福祉教育研究の立場から：保正 友子（立正大学社会福祉学部 教授）

2-3. 課題研究＊テーマ1～5は前年度までに終了。

No.	テーマ	研究代表	研究期間	備考
6	I Tを活用した教育	長崎和則、川廷宗之	2014～2016年度	

<p>2016年度 補正事業計画</p>	<p>○現在までのCAIやIT活用の学習に関する研究についての先行研究についての点検を行う。(点検としては、「高等教育における」と「福祉に関する教育」の二つの焦点で研究調査を行う。)</p> <p>○研究チームを編成する。</p> <p>○今後の研究課題について、アクティブラーニングとの関係を踏まえつつ、以下の点に絞って、会員への意識調査を中心にし、今後の課題を抽出することを目指して研究の中心テーマを修正する。</p> <p>a.アクティブラーニングを進める中で、ITがどこまで活用されているか、実態を調査する。</p> <p>b.(前・計画でのa修正)CAIのみならず、ITを活用した「復習学習」支援から「予習学習」への転換について、その実態を調査し、課題を抽出する。(反転授業も視野に入れて)</p> <p>c.(前・計画でのb修正)(Web授業を含む)教材開発や活用とその学習支援の状況やその効果について実態を調査し、課題を整理する。</p> <p>d.(前・計画でのc修正)IT機器を活用した授業開発にかんして、教育実践への組み込み状況等を調べると共に、効果的な活用方法の研究を計画する。</p> <p><以下の研究課題は、割愛する></p> <p>e.ロボットなどを活用した体験学習について(会話ロボットや介護ロボットを含む)</p> <p>f.SNSを活用した授業</p> <p>g.その他</p>
<p>事業報告</p>	<p>以上に示す内容項目は既に様々な研究もあり少し古くなっているが、民間営利企業にその方法を規制されて行ってしまう傾向はますます強まっていて、その意味で本研究の重要性はますます高まっている。しかし、この宿題研究は研究担当者の都合で着手まで至っていない。従って、本研究は一度、打ち切りとする。研究の必要性が継続していれば、将来、本学会のどなたかが改めて体制を整え、取り組まれることを期待する。</p>

3. 学会誌

第15・16号 2017年3月発行

特 集：第6回春季研究集会

そ の 他：論説、シンポジウム関連寄稿論文

査読論文等：実践報告2本

4. ニュースレター

2016年4月 NL第27号発行

1. 巻頭言(益満孝一理事) 2. 第6回春季大会報告(参加者の声) 3. 理事会報告

4. トピックス(志水幸会長「今後の保健・医療・福祉と社会福祉教育を展望する」) 5.

会員の声～私の福祉教育～ 6. この一冊(宮嶋理事『地方都市「消滅」を乗り越える!』)

7. 学会探訪⑩教育目標・評価学会 8. お知らせ 9. 編集後記

2016年11月 NL第28号発行

1. 巻頭言(白川充理事) 2. 特集「ソーシャルワーク、教育及び社会開発に関する合同会議2016(SWSD2016)に参加して」(保正理事、学生、他) 3. 第12回大会報告(参加者の声①学会シンポジウムと特定課題セッション、②分科会、③ワークショップ)

4. 会員の声～私の福祉教育 5. 総会報告 6. お知らせ 7. 編集後記

5. 渉外関連

- ・日本社会福祉系学会連合総会(5月29日開催)において、保正理事が監査報告を行った。
- ・第12回大会における後援名義承認申請を文部科学省及び日本社会福祉系学会連合に行った。
- ・第7回春季研究集会における後援名義申請を厚生労働省、文部科学省、日本社会福祉系学会連合、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会に行った。
- ・公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会主催「第39回総合リハビリテーション研究大会」における後援名義使用について承諾した。

第 2 号議案 2016 年度 決算報告および監査報告

収入の部				
	補正予算①	決算②	差額②-①	備考
会費	1,700,400	1,910,000	209,600	・過年度未納分の追納を含む ・2016年度年会費8,000×177名=1,416,000円、 2015年度年会費8,000×41名=328,000円、2014年 度年会費8,000×13名=104,000円、2013年度年会 費8,000円、入会費3,000×18名=54,000円
研究集会・参加費	50,000	41,000	△ 9,000	参加費1,000円×41人
共催費	200,000	134,160	△ 65,840	日本社会福祉士養成校協会関東甲信越ブロック
雑収入	10,000	191,653	181,653	第12回大会実行委員会より返戻金191,644円。利息3 円、6円
前年度繰越	606,125	606,125	0	
収入合計	2,566,525	2,882,938	316,413	
支出の部				
支出費目	補正予算①	決算②	差額①-②	備考
大会助成費	300,000	300,000	0	第12回大会
研究集会	250,000	134,160	115,840	第7回研究集会
学会誌発行費	500,000	331,470	168,530	第15・16号を発行
課題研究費	80,000	0	80,000	1 課題研究80,000円
理事会費	150,000	29,713	120,287	理事会会場費等
事務費	200,000	20,721	179,279	事務用品、送料、打ち合わせ会場費、日本社会福祉 系学会連合会費送金料金等
NL発行費	180,000	68,929	111,071	NL27、28号を発行
HP・PR費	50,000	0	50,000	新規HP開設に伴い、2015年度予算内にて2016年度の HPサポート費（2016年5月～2017年3月）を支出済み
渉外費	35,000	30,000	5,000	日本社会福祉系学会連合会費
予備費	400,000	0	400,000	
支出小計	2,145,000	914,993	1,230,007	
次年度繰越	421,525	1,967,945	1,546,420	
支出合計	2,566,525	2,882,938	316,413	

第3号議案 2017年度事業実施中間報告 兼 補正事業計画・予算

1. 理事会・事務局関係

1-1. 総 会

日 時：2017年9月2日(土) 13:30～14:30、会 場：龍谷大学深草キャンパス B1階 B107 教室

議決項目：2016年度事業報告、決算報告、監査報告／2017年度補正活動計画、予算／2018年度事業計画、予算 ほか

1-2. 理 事 会

<第1回>

日 時：2017年7月22日(土)12:05～12:55、会 場：北星学園大学 C館 第5共同研究室

内 容：役員選出選挙に関する選挙管理委員会報告／推薦理事の選任について／入会審査 ほか

<第2回>

日 時：2017年9月1日(金) 13:00～17:00、会 場：キャンパスプラザ京都 6階 龍谷大学会議室

内 容：第13回大会運営準備／総会議案等／入会審査・退会報告

<第3回> *春季研究集会時開催 ※総会時から日程変更になっています。

日 時：2018年3月24日(土)、場 所：東京都内

<通信による理事会>

日 時：2017年4月10日(月)～11日(火)

内 容：役員選出選挙実施に関する事項(当選人の定数・新入会員の選挙権取扱いについて)

1-3. 理事懇談会等*必要に応じて開催する

1-4. 会員状況(2017年第2回理事会時点)：

会 員 数 244名、新入会員 10名(理事会承認…第1回7名、第2回3名)、退会者数 1名

2. 研究関連

2-1. 第13回大会

日 時：2017年9月2日(土)・3日(日)、会 場：龍谷大学深草キャンパス和顔館

後 援：日本社会福祉系学会連合

テーマ：大学における社会福祉教育の到達目標と福祉専門職養成教育の位置づけ

～学部教育と大学院教育の連結と福祉専門職養成教育の位置づけを巡って～

内 容：

【学会企画シンポジウム】「大学における社会福祉教育の到達目標と福祉専門職養成教育の位置づけ」

シンポジスト：宮嶋 淳 (中部学院大学)

川島 恵美 (関西学院大学)

阪口 春彦 (龍谷大学短期大学部)

木原 活信 (同志社大学)

コーディネーター：杉山 克己 (青森県立保健大学)

【開催校企画シンポジウム】「いのちの尊厳と生きる価値」

シンポジスト：玉木 幸則 (NHK e テレバリバラ出演者、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会障害者総合相談支援センター長)

要田 洋江 (大阪市立大学)

加藤 博史 (龍谷大学短期大学部、知的障がい者オープンカレッジふれあい大学課程代表)

コーディネーター：小山 隆 (同志社大学)

【ワークショップ】マクロのソーシャルワーク演習の進め方

講師：川廷宗之 (大妻女子大学名誉教授)

※その他、自由研究発表、情報交換会等

2-2. 第8回春季研究集会 ※総会時から日程変更及び会場や内容等が追加されています。

開催予定日：2018年3月25日（日）

会場：日本福祉教育専門学校（東京都新宿区高田馬場2-16-3）

内容：地域包括支援体制を担う人材養成の方法を学ぶ

3. 学会誌

第17号 10月発行予定 査読論文等

4. ニュースレター

2017年6月 NL第29号発行

1. 巻頭言（川島恵美理事）
2. 理事会報告
3. 第7回春季研究集会報告、参加者の声
4. 会員の声～私の福祉教育～
5. この一冊（中部学院大学通信教育部監修『社会福祉相談援助演習—ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ』『社会福祉実習—ソーシャルワーク実践事例を通じた学び』）
6. 学会探訪①日本のいのちの教育学会
7. 連載「授業 Tips」（川廷宗之理事）
8. 未来教育①「人工知能時代と福祉教育」（柿本誠名誉会員）

2017年秋 NL第30号発行（予定）

5. 渉外関連

- ・日本社会福祉系学会連合総会（5月28日開催）に出席した（小関事務局長）。
- ・第13回大会における後援名義承認申請を日本社会福祉系学会連合に行った。

2017 年度補正予算					
		2017 年度当初予算①	2017 年度補正予算 (案) ②	差額②-①	備考
収入の部	会費	1,700,400	1,722,000	21,600	年会費 8,000 円×(235 人×0.9)=1,692,000、 入会費 3,000 円×10 人
	研究会・参加費	50,000	50,000	0	参加費 1,000 円×50 人
	共催費	200,000	0	△ 200,000	
	雑収入	10,000	10,000	0	利息等
	前年度繰越	821,525	1,967,945	1,146,420	構成費目 (2016 年度繰越, 予備費含む)
収入合計		2,781,925	3,749,945	968,020	
支出の部	大会助成費	300,000	300,000	0	第 13 回大会
	研究会	250,000	200,000	△ 50,000	第 8 回春季研究会
	学会誌発行費	500,000	500,000	0	発行予定 2 回
	理事会費	150,000	150,000	0	対面理事会 2 回(大会・研究会の開催日の前日)、書面等理事会
	事務費	100,000	100,000	0	送料、事務用品費等
	NL 等発行費	180,000	200,000	20,000	発行予定 3 回
	HP・PR 費	150,000	150,000	0	HP サポート費 (ドメイン・サーバー込) 等
	選挙費	100,000	100,000	0	選挙システム、選挙管理委員会開催費 等
	渉外費	35,000	100,000	65,000	日本社会福祉系学会連合会費 等
	予備費	400,000	400,000	0	
次年度繰越		616,925	1,549,945	933,020	
支出合計		2,781,925	3,749,945	968,020	

第 4 号議案 2018 年度 事業計画

1. 理事会・事務局関係

1-1. 総 会：大会開催期間中に実施

1-2. 理 事 会：対面理事会:大会及び春季研究会開催期間中に実施
*その他、書面理事会および理事懇談会を適宜行う。

1-3. 会員状況：会員数の拡大を目指す。

2. 研究関連

2-1. 第 14 回大会 ※総会時には未定だった日程が決定しています。

開催日：2018 年 9 月 1 日 (土) ~2 日 (日)

会場：検討中 内容：検討中

2-2. 第 9 回春季研究会

開催予定日：2019 年 2 月~3 月、会場：検討中、内容：検討中

3. 学会誌：年 2 回発行を目標とする。

4. ニュースレター：年 4 回発行を目標とする。

5. 渉外関連：前年度に引き続き、後援名義申請及び承認等を行う。

第5号議案 2018年度 予算

		2018年度予算 (案)	備考
収入の部	会費	1,786,800	年会費8,000円×(244人×0.9)=1,756,800、入会費3,000円×10人
	研究集会・参加費	50,000	参加費1,000円×50人
	雑収入	10,000	利息等
	前年度繰越	1,549,945	構成費目 (2017年度繰越, 予備費含む)
収入合計		3,396,745	
支出の部	大会助成費	300,000	第14回大会
	研究集会	200,000	第9回春季研究集会
	学会誌発行費	500,000	発行予定2回
	理事会費	150,000	対面理事会2回(大会・研究集会の開催日の前日)、書面等理事会
	事務費	100,000	送料、事務用品費等
	NL等発行費	200,000	発行予定4回
	HP・PR費	150,000	HPサポート費 (ドメイン・サーバー込) 等
	渉外費	100,000	日本社会福祉系学会連合会費 等
	予備費	400,000	
次年度繰越		1,296,745	
支出合計		3,396,745	

第6号議案 第5期役員選出について

	氏名	所属
当選理事	志水 幸	北海道医療大学
	保正 友子	立正大学
	杉山 克己	青森県立保健大学
	川島 恵美	関西学院大学
	川廷 宗之	敬心学園・職業教育研究開発センター
	明星 智美	日本福祉大学
	高橋 信行	鹿児島国際大学
推薦理事	小山 隆	同志社大学
	阪口 春彦	龍谷大学短期大学部
	小関 久恵	東北公益文科大学
当選監事	福山 和女	ルーテル学院大学
	笛木 俊一	株式会社フエギ ゆうあいホーム

5. 理事会報告

2017年9月1日(金)に開催された2017年度第1回理事会、9月2日(土)に開催された第2回理事会について、以下のとおりご報告いたします。

2017年度第1回理事会

1. 開催概要

【日時】2017年9月1日(金) 13時00分～17時00分

【会場】キャンパスプラザ京都 6階龍谷大学会議室(京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路939)

【出席者】[理事] 志水 幸・川廷宗之・杉山克己・川島恵美・竹中麻由美・笛木俊一

[事務局] 小関久恵・宮本雅央・早川 明・山下匡将

【委任状】小山 隆・益満孝一・保正友子・白川 充・福山和女

2. 報告

(1) 2017年度(第13回)大会準備状況について: 収支予算案及び実施体制等が報告・確認された。

(2) 日本社会福祉系学会連合補助金制度について: 制度について説明・確認された。

(3) 役員選出選挙経過報告等のHP掲載について: 「役員選出選挙に関する経過報告」および「役員選出選挙結果への理事会の対応について」の文書を、8月上旬から学会ホームページにて公開中であることの確認がされた。

(4) 退会者について: 1名の退会申請者について確認された。

3. 議事

(1) 2017年度総会議案について: 総会議案書(案)について修正・加筆点を確認し、全会一致で承認した。

(2) 入会申込者の審査について: 入会申込者(2017年7月19日～8月30日の期間)3名の入会を全会一致で承認した。

(3) 2018年度(第14回)大会について: 2018年度第14回大会開催要項(第一次案)をもとに会場や日程、大会テーマ等の検討がされ、大会テーマおよび学会企画シンポジウムの内容については第5期執行部で12月末までに検討することを確認した(継続審議)。

4. その他(確認事項)

- ・横山選挙管理委員長より理事会に提出された「役員選出選挙に関する経過報告」に基づき、選挙関連規則の見直しを行う。また、選挙管理委員会と事務局が対面でのやり取りができるような予算措置を講ずる。
 - ・学会としての長期的展望(ポリシー)を明確化し、他の学会との差別化を図る。
 - ・学会誌の電子化および有料公開を検討する。
 - ・Web教材の開発を検討する。
 - ・NLの年4回発行を目指す(川廷副会長および早川事務局員で検討する)。
 - ・特別会計の創設を目指す(繰越金180万円を目標とする)
- 以上を第5期執行部に申し送ることを確認し、閉会した。

2017年度第2回理事会

1. 開催概要

【日時】2017年9月2日(土) 18時50分～19時00分

【会場】龍谷大学深草キャンパス和顔館B104教室(京都市伏見区深草塚本町67)

【出席者】[理事] 志水 幸・川廷宗之・小山 隆・杉山克己・川島恵美・明星智美・阪口春彦・小関久恵

[事務局] 宮本雅央・山下匡将

【委任状】高橋信行、保正友子

2. 議事

(1) 第5期会長の選出について

2017年度総会によって承認された第5期役員の「当選理事」のなかから、志水理事を会長に互選した。

(2) 第5期執行部の体制について

志水会長から、第5期執行部の体制として、下記の表の通り提案があった。採決の結果、全会一致で承認した。

	担当	氏名
理事	会長	志水 幸
	副会長	川延宗之、小山 隆
	学会誌担当	保正友子、明星智美
	研究担当	高橋信行、川島恵美
	渉外担当	阪口春彦
	特命担当・NL 担当	杉山克己
	事務局長・NL 担当	小関久恵
監事	福山和女、笛木俊一	
事務局員	村山くみ、宮本雅央、早川 明、山下匡将	

6. 会長就任あいさつ

社会福祉学教育における継承と発展の TORCH

日本社会福祉教育学会 会長 志水 幸（北海道医療大学）

この度、第5期理事会（2017年度総会～2020年度総会）の決定により、会長職を再任することとなりました。在任期間の3年は、わが国の社会福祉教育にとって、大きな転換期に重なることが予想されます。そこで、本学会の運営に際し、会員の皆様のより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

これまで、第4期理事会では、当面の課題として、①学会の財政基盤の再建、②学会の社会的位置づけの確立、③組織的な研究体制の整備、④社会福祉教育研究の課題整理に取り組んでまいりました。その成果は、2017年度総会の冒頭挨拶で述べたとおり、①については、理事会および事務局の運営経費節減により、財政の安定化に向け今一步のところまでできております。また、④については、時を見据えた春季研究集会や大会テーマの厳選により、今後の社会福祉教育研究の課題を抽出してまいりました。しかしながら、②に関連する制度的な学術団体への登録や、③の会員諸氏による自発的な研究活動の活性化については、道半ばの状況にあります。この点を第5期理事会への継続課題として、申し送りしたところでございます。会員の皆様におかれましては、引き続きご支援ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

さて、2018年度は、わが国の厚生行政において「惑星直列の年」といわれております。その理由は、同年度が診療報酬や介護報酬、障害報酬の改定、それに伴う新たな諸計画のスタートの年に符合することによります。また、狭義の専門職養成に視点を転じれば、社会福祉士および介護福祉士については第30回、精神保健福祉士については第20回の国家試験が行われる節目の年でもあります。まさに、いま我われは社会福祉学研究の対象となる制度のドラスティックな変革期、それと同時に狭義の専門職養成の転換期に直面しているのです。このことは、同時に社会福祉教育の課題でもあります。一方ではグローバルな視野から広義のソーシャルワーク教育と狭義の専門職養成教育の整合性が問われ、他方では多職種連携や地域連携の視点から“専門性／専門職制の越境”とアイデンティティが問われることになるでしょう。それらを踏まえ、我われは何を学生に語りかけるのか、教育の責任が極めて大であるといわねばなりません。

「20世紀のデカルト」といわれたホワイトヘッドは、『教育の目的』¹⁾の中で、「教育とは知識の活用法を体現させること」とであると指摘しております。そこで重要となるのは、“想像力 (imagination)”であり、教育という営為は想像力を「人の手から手へと渡され闇を照らす松明」とであると指摘しております。この一節は、リッチモンド最後の仕事に通ずるものがあります。1927年に開催された慈善組織協会運動50周年記念大会の開催に際し、彼女自らが作成したシンボルマークは、松明を中央に、「Light from Hand. Life from Age to Age（手から手へ光を、時代から時代へ生活を）」の言葉を配したものでした。²⁾この精神を継承することが、社会福祉教育の使命であることを確認し、再任のご挨拶とさせていただきます。

文献

1) ホワイトヘッド著・森口兼二、橋口正夫訳（1929, 1949=1986）ホワイトヘッド著作集 第9巻 教育の目的, 松籟社, 6頁, 143頁.

2) 小松源助、山崎美貴子、田代国次郎、松原康雄（1979）古典入門 リッチモンド ソーシャルケースワーク：『社会診断』を中心に、有斐閣新書, 161頁.

7. お知らせ

1) 『第8回春季研究集会』のご案内☎2018年3月25日開催

第8回春季研究集会を、2018年3月25日(日)に日本福祉教育専門学校(東京都新宿区高田馬場2-16-3)において開催いたします。テーマは『地域包括支援体制を担う人材養成の方法を学ぶ』。午前中は「共創する人材をどう育成するか」をテーマとして、開学当初より地域の様々な主体と協働・共創する「大学まちづくり」に取り組んできた、東北公益文科大学大学院教授 伊藤真知子先生よりご講演いただきます。午後は、地域共生社会の形成に必要となる、地域における対話の場づくりの技法を学ぶ「共創の技法ワークショップ」を行います。

詳細については、同封の案内チラシをご確認ください。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております！

2) 『日本社会福祉教育学会誌』発行に関するお知らせ

10月末に発刊が予定されていた本年度の夏秋号(17号)は、年度末発刊予定の18号との合併号といたします。現在、学会誌への投稿が少なく、年2回の発刊が難しい状況にあります。発刊状況等も含めて、今後の学会誌のあり方等については新担当理事を中心に議論して参りますので、会員の皆様からも学会誌に関してのご意見がありましたら、是非、お寄せ下さい。

当面は、会員の皆様からの投稿をお待ちするしかありません。是非、本学会誌へのご投稿をお願い致します。

なお、投稿原稿は随時受け付けております。提出先は、学会事務局(下記)です。なお、執筆及び投稿の際には、学会ホームページ(<http://www.jsswe.org/>)上より「執筆要領」をご確認の上ご投稿ください。

学会誌投稿宛先 メール: info@jsswe.org

郵 送: 998-8580 山形県酒田市飯森山3-5-1 東北公益文科大学小関研究室

3) 会費納入について

2017年度の年会費(8,000円)が未納の方は下記口座までお振込ください。

郵便振替口座 口座番号: 00800-8-149492

名義: 日本社会福祉教育学会

編集後記

秋を発行予定としていましたニュースレターですが、季節はすっかり冬となってしまいました。発行が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。寄稿いただきました会員の皆様にはこの場をお借りして御礼を申し上げます。なお、今号は執行部交代に伴い事務局にて編集を担当しました。今後も、ニュースレターのあり方や内容の充実に向けて検討していきたいと存じますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。(事務局 小関)